

会議結果のお知らせ

令和5年度第4回宮古市環境審議会を、次のとおり開催しました。

令和6年3月29日

宮古市環境審議会

1 開催日時

令和6年3月19日（火）午後3時00分～4時50分

2 開催場所

市民交流センター2階多目的ホール

3 議題

- (1) 令和5年度宮古市公害対策測定報告書について
- (2) 宮古市環境基本計画の策定方針について

4 会議の概要

会長が議長となり議事を行い、事務局から公害対策測定報告書について及び環境基本計画の策定方針についてを説明した。

詳細は、別紙会議録のとおり。

5 問い合わせ先

宮古市エネルギー・環境部 環境課 環境係
電話62-2111（内線1721）

令和5年度第4回宮古市環境審議会会議録

1 開催日時 令和6年3月19日(火)午後3時00分～午後4時50分

2 開催場所 市民交流センター2階多目的ホール

3 出席者

(1) 委員

菅原 省司、関川 實、齋藤 敏通、水木 高志、盛合 敏子、西澤 勝美、
寶 由夫、及川 隆一、野場 和彦、懸田 節

(2) 事務局

三上 巧 エネルギー・環境部長、久保田 英明 環境課長、
上田 哲 環境係長、乙戸 美沙子 環境係主任

4 審議会概要

(1) 開会

(2) 会長挨拶(菅原会長)

(3) 議事

①令和5年度宮古市公害対策報告についてと、②宮古市環境基本計画の策定方針について事務局が資料によりそれぞれ説明した。

その後、質疑応答及び意見等を受ける形式で進行した。要旨は次のとおり。

①令和5年度宮古市公害対策報告について

質問・意見等	回答
<p>【委員】 大気環境で磯鷄局のSPM(浮遊粒子状物質)が高いとみるが、事業場等が原因か。</p> <p>【委員】 酸性雨・酸性雪のところで、 ①PHがグラフで見ると上昇傾向であるが、理由は。 ②H24年度で宮古での調査が終了し、盛岡市のみとなった理由は。</p>	<p>【事務局】 4月に環境基準を超過した時間が4時間あり、春の時期にみられる黄砂もその要因となり年平均値も全体的に高くなったと考えられる。事業場等が原因であれば、一時期の超過でなく継続して超過する測定結果となるため、事業場等の原因ではないと考えている。</p> <p>【事務局】 ①PHのグラフについて、上昇しているのはPH値が中性に近づいているということである。 ②H24までは、岩手県が盛岡市・一関市・二戸市・宮古市の4地点で採取していたが、結果に大きな差が無く、H25年度から盛岡市の1地点に集約されたものである。</p>

<p>【委員】 市で測定している小河川の中で、大腸菌群数が高いところがある。何か要因があるか。下水道普及率や浄化槽との関係があるのか。</p> <p>【会長】 八木沢川において、BODが高い時もあることから、検査結果を踏まえて、状況を注視して欲しい。</p> <p>【委員】 山口川本流（八幡橋）の測定結果で、大腸菌群数が高いが、水洗化と関係があるのか。</p> <p>【会長】 いずれにしても、高い値を示した場合、市として状況を注視していただき、必要に応じて対策等、実施をお願いしたい。</p> <p>【委員】 黒田町WC裏の採水地点は海水が入りやすくなっている。採水地点を上流の方に変更してはどうか。</p>	<p>【事務局】 大腸菌群数の高い値は、概ね5月の検査で検出している。その後は低い値で落ち着いてくる。 春の田畑への肥料やり等や、近年は春先に雨量が増えることもあり、その際、山野から野生動物の糞由来の大腸菌も河川に流れ込んでくる。下水道や浄化槽から流出ではない。 ←（意見）</p> <p>【事務局】 山口川本流の流れは、山口地区奥の蜂ヶ沢からの流れが、山口川となるものであり、野生動物由来の影響と考えている。 ←（意見）</p> <p>【事務局】 採水地点選定の理由は、下水道区域の市街地を流れてきた河川水の状況を監視する目的のため、極力、流末地点で採水しているものである。</p>
---	---

②宮古市環境基本計画の策定方針について

意 見	回 答
特に意見無し	

(4) その他

各委員から。要旨は次のとおり。

意 見	回 答
【委員】 合成洗剤を使わない「海を守る運動」	

は自分たちが一番だと思って活動している。今後も継続して活動していく。

【委員】

八木沢川については、宮古短期大学部から下流側のよどみが強い。普段の水量が少ないと感じている。そのため、測定結果にも表れているのだろうと、推測している。

【委員】

河川工事は届出があるが、間伐作業等で作業道を拓く際にそこから流れ出てくる水が濁り水として川に流入し川魚への影響もあると感じている。

【委員】

自社工場が八木沢川に隣接しており測定結果は気になっていた。工場としても継続して適切に対応していきたい。

【委員】

山の地力が無くなる原因とならないよう、間伐作業等をきちんと実施していきたい。作業道は水切りを設置するなど、対応したうえで終わらせるようにしている。ただし、山の中ではニホンジカの食害等によりシダ類の減少も見られるため、土が流れ出る原因にもなっているのかと感じている。

【委員】

公害対策の測定結果報告書は県と市の両方の取組みが記載されており、可視化されて良いと感じた。また、経年変化のグラフ等もあり過去の経過等が可視化され、良いと感じた。

(5) 閉 会